

★Supported by the National Garden Scheme in the U.K.: 英国 The N.G.S.後援

～The N.G.S. Japan～

社団法人N.G.S.ジャパン

## ～2021年春、私の思い～



### ★コロナ渦で、発足20年を思う★

昨年は、世界中の人々がまるで戦火のごとくコロナ・ウィルスに怯え苦しみ悲しみの中、不安な日々を過ごさねばなりませんでした。今年に入ってから、コロナ収束の確固たる道へ導いてくれる光が見えず、人々は、迷える子羊のごとく、その光を求め右往左往するばかりでいます。

このような中、今年も「チャリティの為のオープンガーデン」の開催は難しいかと案じておりました、今だ案じております。しかし、ご協力頂いていますジェネラス・ガーデナーのお庭のオーナー様へご連絡させていただきますと温かなご協力のご返事を頂きます。友の会のメンバーの皆様からも温かな御心を頂きます。私は、お久しぶりに聞く皆様のお声があまりにもなつかしく痛く感動し、何とも嬉しいあつたかな気持ちで目頭が熱くなりました。このコロナ渦だからこそ丸20年間やり続けてきたこの庭園福祉活動の本当の意味を改めて深く思い、更に20年間のめくりめく数々の思い出を思い起こし、皆様へ沢山の感謝の気持ちでいっぱいになっております。心より御礼申し上げます。

昨年1年は、人への「愛」というものを深く考える時間を頂いたかなと感じています。私にとって、「愛」とは、「優しさ」と思いやり、そして誠実、それらが融合したものが「愛」と信じています。そしてお花こそその象徴ではないでしょうか。その愛を与え続けてくれるお花達と共にこの「小さな幸せのお裾分け運動」をやらせていただける幸せを噛みしめつつ、1件でもオープンガーデンをして頂けるのであるならば、この庭園福祉活動はし続けてまいります。し続けていきたいと、丸20年経って今改めてN.G.S.ジャパンに「愛」を感じております。20年前の何だかわからないまま情熱ばかりだった私ではなく、20年経った今だからこそ感じるこの活動への大切な「愛」を皆様と分かち合い続けられましたら幸甚の極みだと思えます。

東日本大震災10年目の今年3月11日に宮城県女川町の若者たちの取り組みについてのテレビを見ていました。震災の時被害が非常に大きかった女川町の若者たちは、毎年ひとつずつ「震災の石碑」を建て続けているそうです。その中の若者のひとりが言った言葉が忘れられません。「震災は、僕たちから全てを奪い壊していったが、『夢』だけは、壊すことは出来なかった。」—どんな困難なことがあっても、神からどんな試練を与えられても、人は、夢を持ち続けさえいたら、将来を憂いめまいがするくらい大きな試練であっても、必ず少しづつでも乗り越えていけるのです。やがて人は試練を乗り越えると何かに気づき、そして成長していきます。たとえ100%ではなくとも、その先に夢の実現が待っているのです。私たちひとりひとりの心の中にある「夢」は壊されません。だからお願いです、ずうっとずうっとみんなで夢を持ち続けてまいりましょう。お花と共に。

今年は、オープンガーデンが開催されます場合、コロナの状況を見ながらですが、随時N.G.S.ジャパンのホームページの「☆<N.G.S.ジャパン〜NEWS>☆」の中でお知らせさせていただきます。皆様に再びお目にかかれます日を心待ちにしております。

今年から「花の音楽会」というチャリティ・コンサートも、年に数回開催できたらと意欲を燃やしております。コロナ渦ですが、まずはバラの美しい5月に横浜市イギリス館でN.G.S.ジャパンの理事澤口雅昭さんプロデュースによる「シューマンの『詩人の恋』」コンサートを予定しております。コンサートに関しましても、詳細は随時ホームページにてお知らせいたします。

今年の6月6日から21年目がスタートです。気持ちを新たに「お庭という美しい癒しの中で、より多くの皆様に、楽しんで頂き、感動して頂き、その幸せのお裾分けとして『チャリティ』という小さな幸せたちに社会のために活躍してもらう」この運動を、これからも皆様の温かなご協力ご支援そして優しい御心を頂きながら行ってまいります。至らないことばかりですが、今後とも、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

感謝と共に心より御礼

(社) N.G.S.ジャパン

代表 谷口 多美江

